

発注企業動向調査結果

-2022.4-

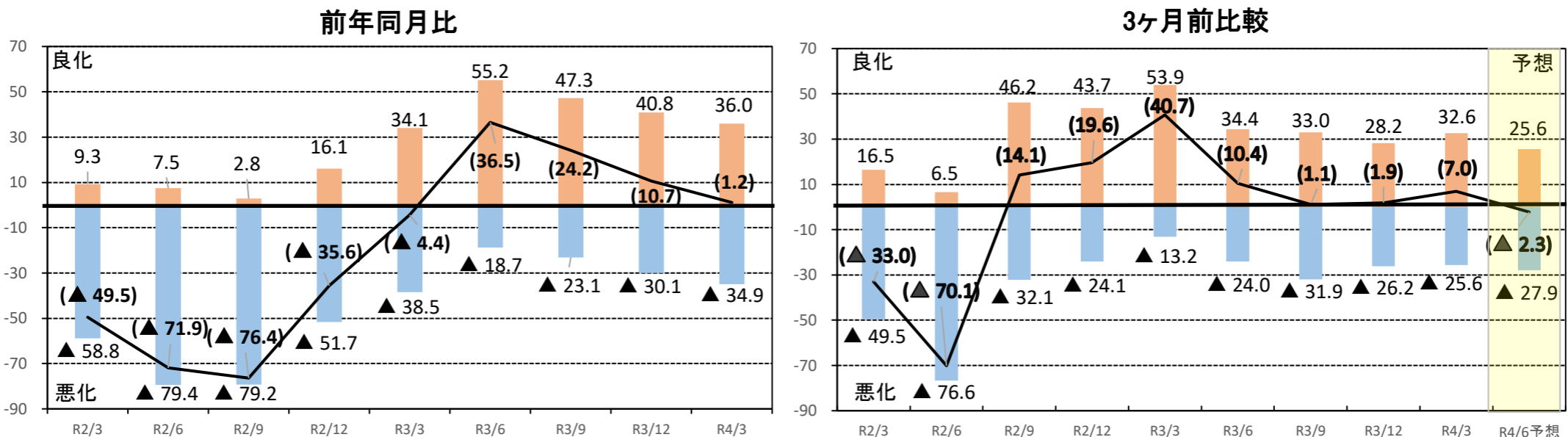
- 調査時点 令和4年3月調査(令和4年3月末時点)
- 対象企業 150社
- 調査時期 4半期毎(3、6、9、12月末時点)
- 回答企業86社(回答率:57.33%)

<業種内訳>

プラスチック	11社
鉄鋼・非鉄	10社
金属製品	6社
一般機械器具	15社
電気機器	19社
輸送用機器	18社
精密機器	3社
縫製	4社
計	86社

DI(Diffusion Index)とは、景気の動きをとらえるための指標であり、良化と回答した企業の割合から、悪化と回答した企業の割合を減じた数値です。

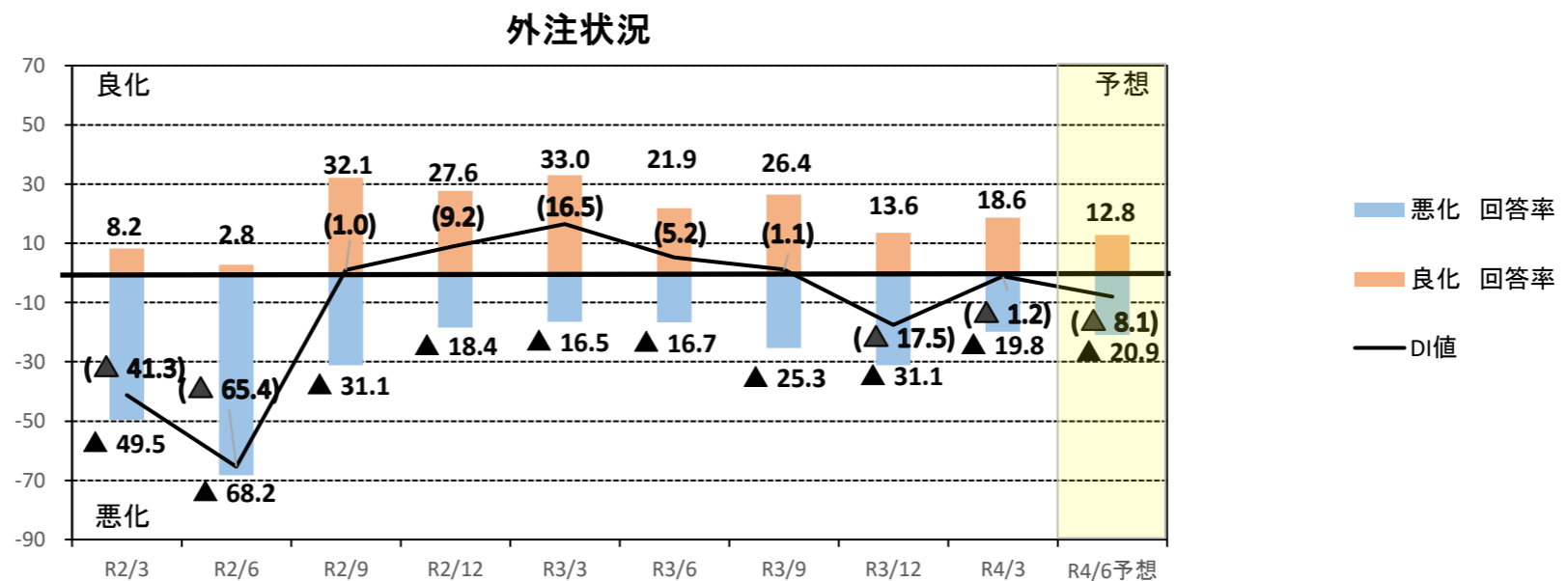
●生産高



	R2/3	R2/6	R2/9	R2/12	R3/3	R3/6	R3/9	R3/12	R4/3	R4/6予想
前年同月比	▲ 49.5	▲ 71.9	▲ 76.4	▲ 35.6	▲ 4.4	36.5	24.2	10.7	1.2	▲ 2.3
3ヶ月前比較	▲ 33.0	▲ 70.1	14.1	19.6	40.7	10.4	1.1	1.9	7.0	▲ 2.3

■悪化 回答率
■良化 回答率
— DI値

●外注状況



	R2/3	R2/6	R2/9	R2/12	R3/3	R3/6	R3/9	R3/12	R4/3	R4/6予想
外注状況	▲ 41.3	▲ 65.4	1.0	9.2	16.5	5.2	1.1	▲ 17.5	▲ 1.2	▲ 8.1

■悪化 回答率
■良化 回答率
— DI値

●概要(総合)

- ・生産高(前年同月比)のDIは1.2で前回の10.7から9.5ポイント減となった。
- ・生産高(3ヶ月前比較)のDIは7.0で前回の1.9から5.1ポイント増となった。
- ・外注状況(3ヶ月前比較)は▲1.2で前回の▲17.5から16.3ポイント増となった。
- ・3ヶ月後の予想DIは生産高が▲2.3で9.3ポイント減、外注状況が▲8.1で6.9ポイント減という予想になった。
- ・その他自由意見として、
 - ・半導体不足による減産が、しばらく続きそうである。
 - ・ロシアのウクライナ侵攻の影響で、半導体不足が更に悪化し、自動車の減産が憂慮される。
 - ・業況は良いが、物価が高騰しているため、先行きが不安である。
 - ・原材料費が上昇した分、売上は上がっているが、製品単価に転嫁できないものがあり、利益が出ていない。
 - ・生産数量は増加傾向であるが、材料・燃料の高騰及び材料の入手難で、生産が安定しない状況である。
 - ・先々の受注はあるが、部品の入手難により出荷見通し立たなく、また、在庫過多になっており、キャッシュフローが良くない状況である。

という意見が寄せられた。